

今あらためて 「つながい感」を感じられるかかわりを！

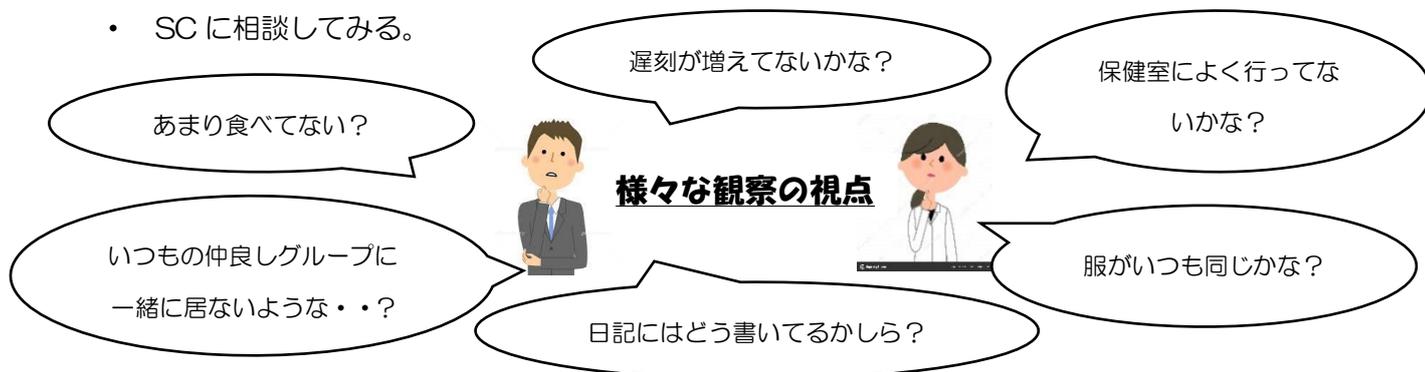
本市の不登校出現率は、全国と同様高い傾向が続いています。3学期を迎え、これまでのかかわりを今一度振り返ってみませんか。

子どもの行動は、先生への心のメッセージです。子どもは、先生からの何らかのアクションを待っています。〈先生は何も言わない〉→〈先生は私に関心がない〉→〈私は居ても居なくても関係ない〉・・・こんな悲しい連鎖にならないように、子どもに分かるように「先生の思いが伝わる」ことが大切です。

〈早期発見・早期対応のアクション〉

① 日頃の観察や対応

- ・ 日頃の様子を注意深く観察する。
- ・ 他の先生に、その子について知っていることや感じていることなどを聞いてみる
- ・ 他の先生にその子の様子を注意してみてくださいるように頼み、気づいたことを知らせてもらう。
- ・ 校内の支援会等で話題にし、複数の先生方でその子について話し合う。
- ・ SCに相談してみる。



② Q-Uのプロットで気になった子への対応

- ・ 先生の方から折をみて気になる子にそっと近づき、「アンケートの結果について心配しているよ」「そんな思いに、先生はもっと早く気づいてあげるべきだったね」「楽しい学校生活を送れるよう、先生にできることは協力し、先生も努力したいと思っている」などを伝える。
- ・ 普段感じていることを、急かさずゆっくり聴いてみる。ただし、特に語らない場合は、それ以上無理強いはいないようにする。

Q-U実施から少し時間がたっても、今までずっと気になっていた思いを子どもに素直に伝えて、子どもに「話せるきっかけ」を作ってみましょう。



③ 今一度「高知市不登校対応スタンダード」を！

1 「不登校かもしれない」という意識
欠席理由に敏感に！！

2 学校として責任を持つ体制作り
教員による対応のばらつきを認めない

3 対応の基本パターン
欠席1日：電話
欠席2日：電話or家庭訪問
欠席3日：必ず家庭訪問→指導でなく支援
チーム支援の始動

サインは3日以内にキャッチ

3日間も連続した欠席は、どこかに何かしんどい状況があると予想されます。必ず、保護者と連絡をとり、早い段階で訪問をして家庭での様子を確認して下さい。焦って強引に「学校に行けるはず」という一方的な強い圧力は、大人への不信感を生みます。まずは、体調不調や疲れの訴えを受けて、身体を休めることが第一です。



④ 様々なシーンでの対応例 Q&A

	場面	ちょっと待った！その対応！	相手への心配りをプラス！
電話対応	「朝おきないんです」「登校をしぶります」と保護者連絡があった時にどうする？	「来さえしたら大丈夫ですから！」「とにかく登校させて下さい」 ⇒できずに困っている保護者は、しんどくなる時がありますね。	「お電話をありがとうございます。ご心配ですね。どんな様子ですか？」保護者を労う応答することで、やり取りが続きます。
家庭訪問対応	欠席が続き、家庭訪問をしたい時にどうする？	連絡せずに、空き時間や夜間に突撃家庭訪問！ ⇒本人にも保護者にもスケジュールがあります。	朝より夕方、週始めより週末に気持ちが落ち着く場合が多いのですが、あくまでも相手に合わせて、事前に都合を聞いて約束を。
	家庭訪問に行った時に、何を話す？	「3日欠席したら家庭訪問、と学校で決まっているから来ました」 ⇒先生は決まりだから来たのであって、自分のためじゃない・・・と、伝わってしまいます。	「あなたのことが心配」 「また一緒にやっっていこうね」の気持ちを伝えたいですね。
保護者対応	家での様子を聞きたい時にどうする？	「明日は行くって言ってますか？」 ⇒家庭の中で「行くか行かないか」の話題が全てになり、親子がしんどくなってないだろうか？という心配りが必要です。	周りが欠席だけに注目を与えずぎると、話すこと自体が辛くなります。好きなTVや趣味の話などホッとさせる内容もおりませず。つながらる気持ちは安心感からです。